

● Appendix 2 それぞれの文字クラスの文字・記号が並んだ場合の文字間の空き量

“3.9.2 文字・記号を振る舞い方により分ける”で解説した、それぞれの文字クラスに含まれる文字・記号が並んだ場合の文字間の空き量は、次の表2のようにする。なお、行の調整の際に詰めてよい箇所又は空けてよい箇所と、その空き量の調整の範囲などは、Appendix 4 及び Appendix 5 に示す。

【表2の見方】

- 1) “before”（表の左端）と示した欄に、前に配置する文字クラスを示し，“after”（表の上端）と示した欄に、後ろに配置する文字クラスを示す。それぞれが交差する小間（こま）に空き量を示す。
- 2) “line start” の欄（横方向の行）には、それぞれの文字クラスを行頭に配置する場合の前の空き量を示し，“line end”（縦方向の列）の欄には、それぞれの文字クラスを行末に配置する場合の後ろの空き量を示す。
- 3) 表のそれぞれの小間に、文字間の空き量などを、次の記号で示す。

無印：文字間（行頭の場合は、その文字の前、行末の場合は、その文字の後ろ）をベタ組にする。

×印：行頭禁則、行末禁則、その他により、このような配置を禁止する。

削除：欧文間隔又は空き量を削除する。

1/2 be：文字間を二分アキにする。ただし、二分は、前に配置する文字サイズの二分とする。

1/2 af：文字間を二分アキにする。ただし、二分は、後ろに配置する文字サイズの二分とする。

注) ここで、二分の基準を前 (be) 又は後ろ (af) とするのは、次図のように行中に異なる文字サイズの文字を配置する場合があります、この際の基準を示すためである。以下の“be”又は“af”と示すのも同様である。

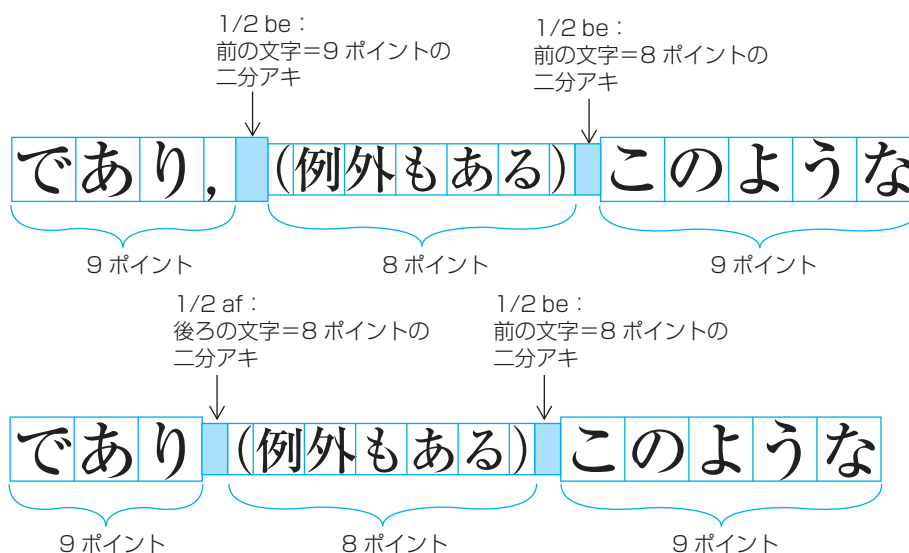


図1 二分アキの場合の二分の基準

1/2 be hang：“1/2 be”（文字間を二分アキ）とする。この二分アキには、ルビ文字を最大でルビ文字の文字サイズまでかけて配置してよい。ただし、この二分アキが行の調整で詰められている場合は、ルビをかけてよいのは、その詰められた（調整された）アキ量までとし、ルビを文字間のア

キ量以上にはみ出して、かけてはならない。

1/2 af hang：“1/2 af”（文字間を二分アキ）とする。この二分アキには、ルビ文字を**最大でルビ文字の文字サイズまでかけて配置してよい**。ただし、この二分アキが行の調整で詰められている場合は、ルビをかけてよいのは、その詰められた（調整された）アキ量までとし、ルビを文字間のアキ量以上にはみ出して、かけてはならない。

1/4 be：文字間を**四分アキ**にする。ただし、四分は、前に配置する文字サイズの四分とする。

1/4 af：文字間を**四分アキ**にする。ただし、四分は、後ろに配置する文字サイズの四分とする。

1/4 be hang：“1/4 be”（文字間を四分アキ）とする。この四分アキには、ルビ文字を**最大でルビ文字の文字サイズの二分までかけて配置してよい**。ただし、この四分アキが行の調整で詰められている場合は、ルビをかけてよいのは、その詰められた（調整された）アキ量までとし、ルビを文字間のアキ量以上にはみ出して、かけてはならない。

1/4 af hang：“1/4 af”（文字間を四分アキ）とする。この四分アキには、ルビ文字を**最大でルビ文字の文字サイズの二分までかけて配置してよい**。ただし、この四分アキが行の調整で詰められている場合は、ルビをかけてよいのは、その詰められた（調整された）アキ量までとし、ルビを文字間のアキ量以上にはみ出して、かけてはならない。

ruby hang：ベタ組において、ルビ文字を**最大でルビ文字の文字サイズまでかけて配置してよい**（注7を参照）。

表2 それぞれの文字クラスの文字・記号が並んだ場合の文字間の空き量

文字クラス名	after																														line end
	cl_1	cl_2	cl_3	cl_4	cl_5	cl_6	cl_7	cl_8	cl_9	cl_10	cl_11	cl_12	cl_13	cl_14	cl_15	cl_16	cl_19	cl_20	cl_21	cl_22	cl_23	cl_24	cl_25	cl_26	cl_27	cl_28	cl_29	cl_30			
cl_1 始め括弧類					1/4 af																注1)	注1)						×		×	
cl_2 終わり括弧類	1/2 be		1/2 be	1/2 be	1/4 af			1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be		
cl_3 ハイフン類	1/2 af				1/4 af																										
cl_4 区切り約物	1/2 af				1/4 af														1/4 be				1/4 be	1/4 be		1/4 be					
cl_5 中点類	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	注3)	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be	1/4 be		
cl_6 句点類	1/2 be		1/2 be	1/2 be	注5)			1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be		
cl_7 読点類	1/2 be		1/2 be	1/2 be	注5)			1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be	1/2 be		
cl_8 分離禁止文字	1/2 af				1/4 af																ruby hang	ruby hang									
cl_9 繰り返し記号	1/2 af				1/4 af														1/4 be				1/4 be	1/4 be		1/4 be					
cl_10 長音記号	1/2 af				1/4 af														1/4 be	ruby hang	ruby hang	1/4 be	1/4 be		1/4 be						
cl_11 小書きの仮名	1/2 af				1/4 af														1/4 be	ruby hang	ruby hang	1/4 be	1/4 be		1/4 be						
cl_12 前置省略記号	1/2 af				1/4 af																							×		×	
cl_13 後置省略記号	1/2 af				1/4 af																										
cl_14 和字間隔					1/4 af																ruby hang	ruby hang									
cl_15 平仮名	1/2 af				1/4 af														1/4 be	注7)	注7)	1/4 be	1/4 be		1/4 be						
cl_16 片仮名	1/2 af				1/4 af														1/4 be	ruby hang	ruby hang	1/4 be	1/4 be		1/4 be						
cl_19 漢字等	1/2 af				1/4 af														1/4 be				1/4 be	1/4 be		1/4 be					
cl_20 合印中の文字	1/2 af				1/4 af																										
cl_21 親文字群中の文字(添え字付き)	1/2 af				1/4 af				1/4 af	1/4 be	1/4 af				1/4 af	1/4 af	1/4 af		注8)	1/4 af hang	1/4 af hang						1/4 be		1/4 af		
cl_22 親文字群中の文字(熟語以外のルビ付き)	1/2 af hang	ruby hang			1/4 af hang	ruby hang	ruby hang	ruby hang		ruby hang	ruby hang			注9)	ruby hang	注7)			1/4 be hang	注10)		1/4 be hang	1/4 be hang		1/4 be hang		×				
cl_23 親文字群中の文字(熟語ルビ付き)	1/2 af hang	ruby hang			1/4 af hang	ruby hang	ruby hang	ruby hang		ruby hang	ruby hang			注9)	ruby hang	注7)			1/4 be hang		注11)	1/4 be hang	1/4 be hang		1/4 be hang		×				
cl_24 連数字中の文字	1/2 af				1/4 af				1/4 af	1/4 af	1/4 af				1/4 af	1/4 af	1/4 af			1/4 af hang	1/4 af hang		1/4 be			1/4 be		1/4 af			
cl_25 単位記号中の文字	1/2 af				注11)				1/4 af	1/4 af	1/4 af				1/4 af	1/4 af	1/4 af			1/4 af hang	1/4 af hang	1/4 be				1/4 be		1/4 af			
cl_26 欧文間隔	1/2 af				1/4 af																									削除	
cl_27 欧文用文字	1/2 af				1/4 af				1/4 af	1/4 af	1/4 af				1/4 af	1/4 af	1/4 af			1/4 af hang	1/4 af hang		1/4 be			1/4 be		1/4 af			
cl_28 割注始め括弧類		×	×	×	×	×	×		注13)	注14)	注15)								×		×	×		削除		×	×		×		
cl_29 割注終わり括弧類	1/2 af				1/4 af														1/4 af				1/4 af	1/4 af		1/4 af		×			
cl_30 縦中横中の文字	1/2 af				1/4 af														1/4 be				1/4 be	1/4 be		1/4 be					
line start	注16)	×	×	×	×	×	×		注13)	注14)	注15)							×							削除		×		×		

【注】

- 1) 前に配置する“cl_01 始め括弧類”の後ろに“cl_22 親文字群中の文字（熟語以外のルビ付き）”又は“cl_23 親文字群中の文字（熟語ルビ付き）”が連続する場合は、ルビ文字を最大でルビ文字の文字サイズまでかけて配置してよい。ただし、前の“cl_01 始め括弧類”にルビ文字はかけない、又はルビ文字を最大でルビ文字の文字サイズの1/2までかけて配置する、という方法もある。
- 2) 行末に配置する“cl_2 終わり括弧類”の後ろは、二分アキとする。ただし、ベタ組とする方法もある（“3.1.9 行末に配置する始め括弧類（cl-01）、終わり括弧類（cl-02）、句点類（cl-06）、読点類（cl-07）の配置方法”参照）。
- 3) 前に配置する“cl_05 中点類”の文字サイズの四分アキ+後ろに配置する“cl_05 中点類”の文字サイズの四分アキとする。
- 4) 行末に配置する“cl_5 中点類”の後ろは、四分アキとする。ただし、ベタ組とする方法もある。
- 5) 前に配置する“cl_06 句点類”又は“cl_07 読点類”の文字サイズの二分アキ+後ろに配置する“cl_05 中点類”の文字サイズの四分アキとする。
- 6) 行末に配置する“cl_6 句点類”又は“cl_7 読点類”の後ろは、二分アキとする。ただし、ベタ組とする方法もある（“3.1.9 行末に配置する始め括弧類（cl-01）、終わり括弧類（cl-02）、句点類（cl-06）、読点類（cl-07）の配置方法”参照）。
- 7) “cl_22 親文字群中の文字（熟語以外のルビ付き）”又は“cl_23 親文字群中の文字（熟語ルビ付き）”の前又は後ろに“cl_16 片仮名”を配置する場合、ルビ文字を最大でルビ文字の文字サイズまでかけて配置してよい。ただし、JIS X 4051では、片仮名は、“cl_19 漢字等”の文字クラスに含めているので、片仮名にルビ文字を掛けることは禁止されている。

なお、“cl_15 平仮名”、“cl_16 片仮名”だけでなく、“cl_19 漢字等”を含めて、全てルビ文字を最大でルビ文字の文字サイズの1/2までかけて配置してよい、とする方法や、“cl_15 平仮名”、“cl_16 片仮名”及び“cl_19 漢字等”の全てにルビ文字をかけない、とする処理方法もある。
- 8) 後ろの文字が前の“cl_21 親文字群中の文字（添え字付き）”と同一の親文字群の“cl_21 親文字群中の文字（添え字付き）”の場合は、“3.7.1 添え字処理”で解説した方法で配置する。後ろの文字が前の“cl_21 親文字群中の文字（添え字付き）”とは別の親文字群の“cl_21 親文字群中の文字（添え字付き）”の場合は、その字間はベタ組とする。
- 9) “cl_14 和字間隔”には、ルビ文字を最大でルビ文字の文字サイズまでかけて配置してよい。段落の先頭行を全角下ガリにする場合にも、この部分にルビ文字を最大でルビ文字の文字サイズまでかけて配置してよい。ただし、段落の先頭行を全角下ガリにする部分にルビかけを禁止する処理方法もある。
- 10) 後ろの文字が、前の“cl_22 親文字群中の文字（熟語以外のルビ付き）”と同一の親文字群の“cl_22 親文字群中の文字（熟語以外のルビ付き）”の場合は、“3.3.5 モノルビの親文字に対する配置位置”又は“3.3.6 グループルビの親文字に対する配置位置”で解説した方法で配置する。後ろの文字が前の“cl_22 親文字群中の文字（熟語以外のルビ付き）”とは別の親文字群の“cl_22 親文字群中の文字（熟語以外のルビ付き）”の場合は、その字間はベタ組とする。
- 11) 後ろの文字が前の“cl_23 親文字群中の文字（熟語ルビ付き）”と同一の親文字群の“cl_23 親文字群中の文字（熟語ルビ付き）”の場合は、“3.3.7 熟語ルビの親文字に対する配置位置”で解説した方法で配置する。後ろの文字が前の“cl_23 親文字群中の文字（熟語ルビ付き）”とは別の親文字

群の“cl_23 親文字群中の文字（熟語ルビ付き）”の場合は、その字間はベタ組とする。

12) 前に配置する“cl_25 単位記号中の文字”と後ろに配置する“cl_05 中点類”の字間は、後ろに配置する“cl_05 中点類”の文字サイズの四分アキである。ただし、中点[・] (KATAKANA MIDDLE DOT) は、“cl_25 単位記号中の文字”としても使用する。この場合については、中点[・] (KATAKANA MIDDLE DOT) の前及び後ろはベタ組とする。

13) 行頭又は割注行頭に“cl_9 繰返し記号”を配置することは原則として禁止である。ただし、行頭に配置される繰返し記号[々] (IDEOGRAPHIC ITERATION MARK) には、次の3つの処理方法がある。

(1) 原則通り行頭又は割注行頭に配置することは禁止し、なんらかの行の調整処理を行う。繰返し記号である[々] (IDEOGRAPHIC ITERATION MARK) を“cl_9 繰返し記号”に含めたままとする。

(2) 行頭又は割注行頭に配置すること禁止としない。この場合は、繰返し記号である[々] (IDEOGRAPHIC ITERATION MARK) を“cl_19 漢字等”に含める。

(3) 行頭又は割注行頭に配置する[々] (IDEOGRAPHIC ITERATION MARK) を元の漢字に変更する。

例 行末：国 行頭：々 → 行末：国 行頭：国

行末：人 行頭：々 → 行末：人 行頭：人

14) 行頭又は割注行頭に“cl_10 長音記号”を配置することは、原則として禁止である。ただし、“cl_10 長音記号”を行頭又は割注行頭に配置することを許容する処理方法もある。この場合は、“cl_10 長音記号”は、“cl_16 片仮名”に含ませる。

15) 行頭又は割注行頭に“cl_11 小書きの仮名”を配置することは、原則として禁止である。ただし、“cl_11 小書きの仮名”を行頭又は割注行頭に配置することを許容する処理方法もある。この場合は、平仮名の“小書きの仮名”は“cl_15 平仮名”，片仮名の“小書きの仮名”は“cl_16 片仮名”に含ませる。

16) 行頭に配置する“cl_01 始め括弧類”の前はベタ組である。ただし、行頭に配置する“cl_01 始め括弧類”の前を二分アキとする方式もある（改行の行頭に配置する“cl_01 始め括弧類”の配置法を含め、“3.15 行頭の始め括弧類 (cl-01) の配置方法”参照）。